

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 横浜市立永田台小学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 232 - 0075

横浜市南区永田みなみ台6-1

E-mail y3nagatd@edu.city.yokohama.jp

Website http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/.es/nagatadai/.

幼児児童生徒数 男子 242 名 女子 236 名 合計 478 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳 ~ 12 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校の ESD の基盤は、「ケアリング」である。子ども同士だけでなく、大人同士のケアリングも大切にしている。

他学年、地域、他校、世界との交流をし、「つながり」を大事にした教育実践を行っている。

また、ホールスクールアプローチを体系化し、学校まるごと ESD に向けてデ・サイン (de・sign) し、学校をコアにした持続可能な社会づくりに取り組んでいる。

### ① SDGs に係わる活動

6 年生では、昨年度から SDGs について理解を深めている。今年度は 17 の目標を達成するために、自分自身ができることは、何かということについて活動をしていた。その一歩として、「11 持続可能なまちづくり」に着目し、

地域の高齢化している団地のために、できることを考えた。地域の方とのつながりを大切に、月2回地域と連携をし、赤ちゃんからお年寄りまで集まる「つながり祭」に積極的に参加をした。地域の会議にも参加をし、持続可能で元気なまちであり続けるために意見交換をした。この活動を、今後も継続していく予定である。

## ②海外交流に関わる活動

5年生では、今年度の総合的な学習の取り組みの一つとして「海外とのつながり」を大切にしている。日本の伝統の米作りや文化について海外の学校に伝えたいという思いをもって活動を始めた。

また、永田台小学校は、ユネスコスクールとして海外の小学校とも連携しており、このつながりを利用し、姉妹校として、オーストラリアのモンミア小学校と交流を続けている。今年度で4年目のとなる。この交流を利用して、5年生の児童がYICAの活動で作った名刺をモンミア小学校に送ったり、自分が紹介したいことを手紙に書いて送ったりした。

そして、モンミア小学校からも日本の七夕祭りを行っている写真や手紙が届いた。手紙を送ることが中心となっているが、YICAの活動を生かし、自分達の思いが伝えられることや手紙の返事が来ることに子ども達は充実感を持つことができた。そして、外国の文化をすることによって海外を遠い場所、自分達とは関係ない場所と感じず、つながりを感じて活動することができた。

## ③多くの人とのつながりを大切にする教育

学校目標である「一人一人が輝く永田台」を自分たちがどのように受け止めるのか、学年で話し合い、「自分、友達、家の人、先生、地域の人みんなが輝けるようにしていきたい」と目標をもってスタートした。

運動会や音楽を通して、自分たちの成長した姿が表現できるように練習を重ねた。本番では、自分たちの輝く姿を見せられたと達成感を感じることができた。そして、その姿を見た家の人たちの喜びの声が、子どもたちの頑張りを価値づけるものとなった。

まち探検では、様々な施設の方から、どんな施設で何が行われているか教えてもらった。自分が興味をもったところに直接質問することによって、生の声を学びに繋げた。コミュニティハウスの合唱サークルの方々から歌い方を、図工では、地域の大工さんから木の切り方を、社会の昔体験では、火起こしの仕方を地域の方から教わった。まちには、いろんな分野の先生がいることを知った。そして、多くの方に支えられていることに気付くことができた。

自分たちが輝くことができたことで、地域の方々にも輝いてもらいたいと思うようになり、数多くある老人介護施設に行き、お年寄りの方の笑顔を見ようと交流するようになった。リコーダー奏や歌を聞いてもらうことから始まり、会話や折り紙などを一緒にするようになった。最後は、どんな歌が好きかインタビューして、一緒に歌うことを楽しみ、お年寄りの方々の笑顔に達成感を感じることができた。

これらを通して、多くの方と繋がり、みんなが笑顔になれる活動となった。

#### ④生き物に係わる活動

5月頃から夏野菜の種を植えて、9月にはそれぞれの野菜が見事な実を実らせていった。子どもたちは、継続的に栽培活動に取り組んだ。種から出芽し、茎や葉ができてだんだんと大きくなっていく姿を見て、少しずつ形を変えていく命の力や野菜によって形が違うということなど、多くのことを感じ取った。収穫した野菜は、学校や家庭で調理して食べた。この活動を通して、ここまで大きく育てることができたことに喜びを感じ、また生き物から私たちは大きなエネルギーをもらっていることを感じることもできた。

冬野菜にもチャレンジしたが、今年の寒さで野菜が育たず、収穫までには至らなかった。そこから、気温や天気によって栽培方法や環境を変えていかなければいけないことを学んだ。

植えのときには、地域の方に来ていただき、植え方や注意することを教えていただいた。このような人とのつながりもできて、生き物を通して様々なつながりをもつことができた。



① の写真（つながり祭の様子）



② の写真（モンミア小との交流）



③ の写真（地域のお年寄りとの交流）



④ の写真（野菜を育てる様子）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 委員会活動、休日の地域活動 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

<p>○私たちが目指す世界 子どものための「持続可能な開発目標」 【公益社団法人プラン・インターナショナル・ジャパン】 ○地球教室【朝日新聞社】 ○WWF ジャパン <a href="https://www.wwf.or.jp/">https://www.wwf.or.jp/</a>.</p>
---

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコスクールとして、様々な「つながり」を大切にして活動している。教育課程（指導計画）に組み込むため、年度初めに、全職員で各学年の「かがやき暦」を作成し、どのような人とどのような繋がりをもっていか、そして、目指す子どもの姿を共有する。学年目標、学級目標、教科との関わり、学力向上プランを結びつけて指導方法の工夫改善に努めている。年度末には、学校の成果と課題を明確にして次年度に向け、さらなる工夫改善に努めていく。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ユネスコスクール担当者は、各学年1名教員が配置されている。また、研究推進委員会と連携をしながら活動を行っている。全教職員の一人ひとりの考えや意見を大切に、研究会はワークショップ形式で行い、語り合いをベースにしている。職員室内でも会話が多く、他学年との交流も盛んである。子どもの変容やケアを中心に、日々教育活動を行っている。教職員が、元気に子どもたちと関わるために、教職員の多忙化解消にも力を入れている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校評価を地域からはヒアリング、保護者からはアンケートで年間の中で定期的に行っている。教職員は研究会の中でリフレクションを行い、日常の教育活動と子どもの変容を共有している。その中でも教職員の変容も大切にしている。成果としては、環境に対しての学校での取り組みを、家庭や地域でも実践していることである。また、子どもたちが地域のためにボランティア活動を自主的に行っていることも分かった。課題としては、ESD に初めて出会った教職員、保護者の方に理解を深めるということである。無理なく、語り合いながら、推進していくことが大切である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

毎年 12 月に開催されるエコプロダクツでは、学校の取り組みをポスターにして、紹介している。3～6 年生は、実際に会場に行き様々な企業の方を相手に一年間の活動を、児童自ら発表している。また、外部の方が自由に参加することができる ESD についての研修を定期的開催している。更に月に一度程度行われる、重点研究会では、授業の指導案に ESD の視点(環境・経済・社会)を入れ授業の中で常に ESD を意識できるようにしている。このように発信することで、外部からの学校訪問や研修参加が増え、他校の取り組みへと広がっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

平成 25 年から、「環境のための地球規模の学習及び観測プログラム(グローブ)」に指定校として参加している。主な活動としては、気温・地温・雲の様子・水質を毎日観測し、アメリカのグローブ本部に観測データの送信することと、2 年に 1 回の活動報告会(グローブ日本生徒の集い)への参加がある。また、日本事務局のある、東京学芸大学環境教育研究センターでの研修や、コーディネーターの学校視察など、さまざまな交流をしている。子どもたちは観測活動を通して、身近にある自然環境に目を向け、気候による雲の様子の変化や、気温の変化など気づいたことを校内に発信している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

本校は、4 年前からオーストラリアの小学校と姉妹校として交流を行っている。交流の仕方としては、高学年を中として、YIGA で習った英語を使い、日本の文化を紹介したりオーストラリアの文化について教えてもらったりしている。昨年度は、日本の文化(正月やアニメなど)を紹介する動画を作り送った。今年度は、名刺を交換したり日本の伝統的な米作りについて紹介したりした。

また、今年度は、イギリスのアシュレイ小学校に教員を派遣し、海外のカリキュラム編成や働き方について学んだ。アシュレイ校では、公立小学校でありながら、気候変動や環境教育に力を入れており、子ども自身が考え行動していく教育が行き届いている。そして、本校でも取り組める活動について紹介し、本校の教員で考える場を設けた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

本校はユネスコスクールとして ESD を推進し、自己変容から地域変容に貢献している。様々な機関と連携をしている。

①地域のゴミ問題

自治会・商栄会・区役所・環境創造局・資源循環局・環境行動推進員  
関連：3・4年生 社会「ゴミゼロへの取組」「ゴミの収集と処理」  
特別支援学級「生ゴミワーストワン脱出大作戦」

②地域の高齢化・認知症対策

区役所・社会福祉協議会・民生委員・老人会・保健活動推進委員  
地域ケアプラザ・認知症見守り隊・認知症サポーター・保健福祉センター  
関連：5・6年生「総合的な学習の時間」

③地域の活性化

区役所・自治会・地域ケアプラザ・民生児童委員・青少年指導員  
スポーツ推進委員・UR・PTA・NPO・企業等  
関連：全校各教科や総合、課外活動「地域巡り」「つながり祭」「ほっとサライ」

【効果】

①「金沢焼却工場見学」「リサイクル教室」で、子どもたちは、毎日のごみの捨て方を

直し、行動を変え始める子が出てきた。持続可能なライフスタイルを意識し始めている。「つながり祭」の前に行われる「ごみひろいボランティア」に参加する子も出てきた。

②地域の中に認知症のお年寄りがいるということが知り、出会ったときにどのような声掛

けができるのか学ぶことができた。さらに、自分の祖父母の現状につなげて考えることもできた。

③つながり祭に参加し続けることにより、子どもは、地域の方の力によって、いつもは寂しく感じるシャッターの閉まった空き店舗がにぎやかになることを感じた。また、地域の方との交流をより深めることができた。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

本校のESDの基盤は「ケアリング」である。身近な他者を大事にすることが、地域、日本、そして世界の課題への解決の一歩となる。それは子どもだけではなく、大人同士のケアリングも大切である。ケアリングが育まれることで「つながり」がそこにはうまれる。この「つながり」は、他学年交流、地域交流、他校交流、世界交流、へと広がる。つながりを大事にした、教育実践を行う。

ホールスクールアプローチを体系化し、学校まるごとESDに向けてデ・ザイン(de・sign)し、学校をコアにした持続可能な社会づくりに取り組む。その年間を通じた各学年のESDの取組をエコプロ2019で発信し、子どもたちから社会変容を起こしたい。

ESDの具体化

低学年 体験 五感を生かし、自然や人を愛する心情を育む

中学年 行動 自然の現象や人とのつながりに気付き、自分にできることにチャレンジする

高学年 探求 自分のテーマをもち、探究し続け、自己をふりかえる

本校は、横浜市ESD推進校となっている。ESDの実践と共に、変化を起こす研究・研修を行う。毎回の公開授業研究会では多くの業種の方が来校し、よりよい未来を子どもたちと共につくっていくことを目指し、語り合うことで自分に取り組むこと(GAPグローバル・アクション・プラン)を設定し終了する。また、本校職員は、年間を通してリフレクション研修を行い、子どもの変容と共に教師自身の変容も大切にしていく。

来年度は、海外との交流を通して地球規模の課題について考えを深める活動に挑戦したい。